

英米の社会と文化I (その2)

2単位 2年(後期)

吉田 文美・准教授/人間文化学科

【授業目的】英語詩を講読し、韻文で書かれたテキストの正確な読解、内容把握の訓練を行う。また、作品の時代や社会状況といったコンテキストについても考慮し、英語詩の評価・批評がおこなえる基礎を養成する。

【授業概要】主に18世紀以降に書かれた英語詩を読む。作品の精読を通じて、英語で書かれた詩に対する理解を深め、作品の背景にある社会・文化状況についても考察する。後期(その2)では、前期(その1)で取り上げたものより、難解な作品が中心となる。

【キーワード】 *introduction to English poetry, reading poems, poetry in English*

【先行科目】『英米の社会と文化I (その1)』(1.0)

【関連科目】『英米の社会と文化II (その1)』(0.5), 『英米の社会と文化II (その2)』(0.5), 『英米文化研究I (その1)』(0.5), 『英米文化研究I (その2)』(0.5), 『英米文化研究II (その1)』(0.5), 『英米文化研究II (その2)』(0.5), 『英米文化研究III (その1)』(0.5), 『英米文化研究III (その2)』(0.5), 『文化批評論(その1)』(0.5), 『文化批評論(その2)』(0.5)

【履修上の注意】隔年開講。2011年は開講。

【到達目標】

1. 授業で取り上げた詩については、正確な内容把握ができる。
2. 各作品の背景についても考慮し、作品の評価・批評が論理的にできる。

【授業計画】

1. 以下にあげる詩人の作品を読む予定です。
2. W. H. Auden (1907-73), William Blake (1757-1827), Elizabeth Bishop (1911-79),
3. John Clare (1793-1864), Austin Clarke (1896-1974), e. e. cummings (1894-1962)
4. Emily Dickinson (1830-86), Robert Frost (1874-1963), Thomas Hardy (1840-1928),
5. Seamus Heaney (1939-), Ted Hughes (1930-1998), Patrick Kavanagh (1904-67),
6. John Keats (1795-1821), D. H. Lawrence (1885-1930), Norman Maccaig (1910-1996),
7. Sylvia Plath (1932-63), W. B. Yeats (1865-1939)
8. なお、取り上げる詩人については、変更されることもある。

【成績評価】2回のテストと、授業への出席・参加状況などから総合的に評価する。評価のうち、テストを8割、その他を2割程度とする。

【再試験】行わない。

【教科書】授業中に指示します。

【参考書】『リーダーズ英和辞典』またはそれと同等の収録語数を有する英和辞典を使用すること。電子辞書の使用も可。その他は、授業中に必要に応じて指示する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218386>

【連絡先】

⇒ 吉田 (1N10, 088-656-7124, ayami@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜日 11:55-12:50)

【備考】隔年開講(後期)。2011年度開講。